

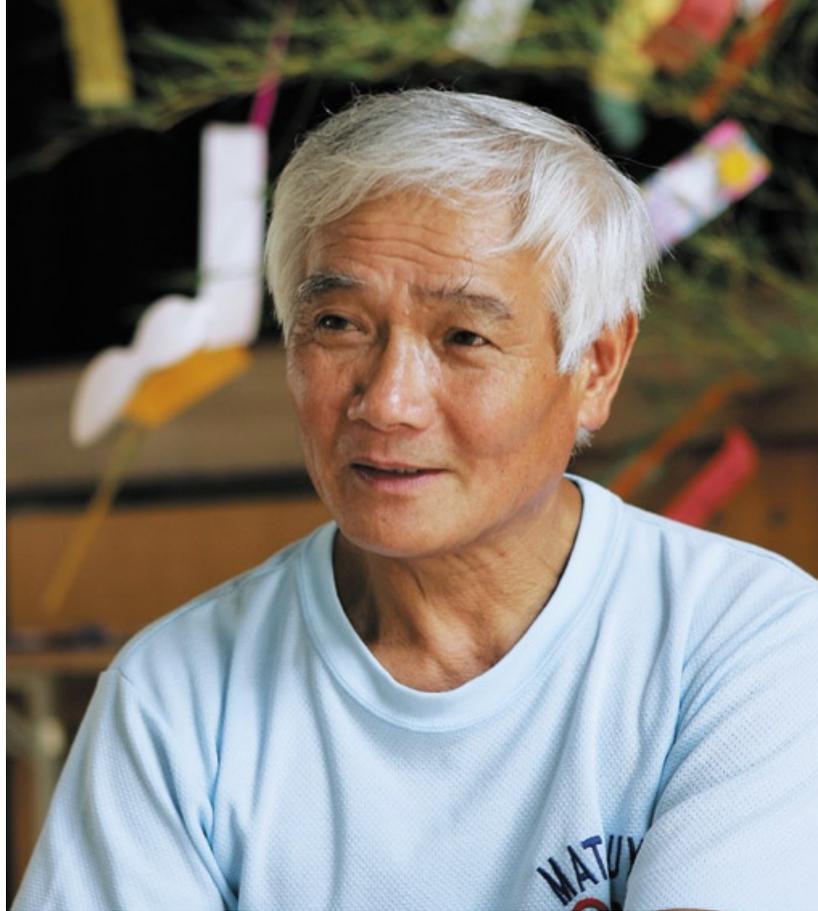
『佐礼谷わんぱく塾』で
子どもたちの健全育成をめざす

あべ あらた
安部 新さん (中山町佐礼谷)

「学校の授業では教わらないことを子どもたちに教えたいんです。」そう話す安部新さんは、『佐礼谷わんぱく塾』のお世話をしています。このわんぱく塾は、去年から行われているもので、参加しているのは佐礼谷小学校に通う児童23人。毎週水曜日、子どもたちの授業が終わった後の15時から17時ごろまで活動しています。

「学校の近くの農園でさつまいもやトマト、トウモロコシを育て、収穫祭にみんなで食べたいこともあります。こうした活動には地域人々の協力も欠かせません。」地域全体で子どもを育てていくという気持ちがありますね。小さな地区だからこそできることかなと思います。

取材をした日は、工作教室の最中で、子どもたちが作っていたのは投げの道具。出来上がったらみんなで遊ぶのだそうです。高学年の男子は器用に金づちやきりを使って、輪を引く掛ける柱の部分を作り、女子的の数字のペンキ塗りを担当。また、低学年の子どもたちは、七夕の



▲塾では子どもたちからの質問も多く、大忙しの安部さん。

笹がざりに願い事を書いて飾りつけをしました。

安部さんは、作業の間、子どもたちから質問を受けて大忙し。しかし、「金づちは柄の下の方を持つと力が加わりやすくなるよ。」「刷毛はこう使つと角がきれいに塗れるからね。」と一人一人丁寧にアドバイスをします。「子どもにも教えることは好きですね。以前から中山スポーツ少年団で剣道も教えています。子どもと触れ合っていると、パワーをもらえて気持ちも若返るんです。活動中は子どもたちもうれしくてたまらないという感じで、みんな一生懸命に取り組んでくれています。」

「子どもたちには、わんぱくでもいい、元気に、そして礼儀正しく育てて欲しい。だから、なぜいけないかきちんと説明をした上で、叱る時は叱ります。そのためには、お互いの信頼関係が大切ですね。」そうした方針で活動が続けるうちに、年上の子が年下の子の面倒をみるというたこともできるようになってきたそうです。

「私は、若いころは地域の外に出ていましたが、『いつかふるさと』の佐礼谷に帰って来よう」とずっと心に決めていました。この佐礼谷の良さ、いっぱいの人情も伝えられたらと思うんですよ。「安部さんは今、優しい笑顔で子どもたちの成長を見守っています。」